

1. 開催日時：2023年5月25日（木）13時30分～15時45分

2. 開催場所：岡山市中区役所 2階多目的ホールA

3. 出席者：自治体18名、事業所・その他16名、オンライン参加12名、

講師：3名、事務局10名 計 58名

4. 講演内容

- ・うちエコ診断による省エネ普及
株式会社プレゼントデザイン／川端 順也
- ・スマートメータデータを活用した省エネコミュニケーション
東京エネルギー研究所／八木田 克英
- ・令和5年度省エネの進め方と省エネ診断事例
一般財団法人省エネルギーセンター／エネルギー使用合理化専門員 児玉 弘士
(敬称略)

5. 配布資料

- 資料1 令和5年度ゼロカーボン研究会の概要と第1回研究テーマの説明
- 資料2 うちエコ診断による省エネ普及
- 資料3 スマートメータデータを活用した省エネコミュニケーション
- 資料4 令和5年度省エネの進め方と省エネ診断事例

6. 議題

- 1) 本日第1回研究会の概要とテーマについて
研究会の概要と第1回のテーマについて事務局より説明。
- 2) うちエコ診断による省エネ普及について
講演後、下記の通り質疑応答を行った。
 - 質疑応答岡山市：うちエコ診断士になるための経費、また、うちエコ診断実施時の代金（誰が負担してこの動きができているのか）を知りたい。
川 端：うちエコ診断士になるためには講習会を受けて試験があり、対面で接客できるかの試験もあったと思う。多分3～5万くらい。診断時の料金は1985の場合は無料。環境省から補助が出て、診断員に少しお金が出るといった仕組み。民間の企業では、試験に合格した社員が診断を行っている場合もある。民間企業には料金を取ってはいけないという制限はないので、各企業に独自の料金設定が存在する可能性がある。

岡山市：うちエコ診断の実施件数が多い兵庫県は、補助金と紐付いていることが理由として考えられるとのことだったが、他にも実施件数の多い京都府や広島県が具体的にどのような取組や推進によって件数が増えているのか、詳細を知りたい。
川 端：京都府の詳細は分からない。広島県はセンターが頑張っている。
岡山市：断熱改修などに関してワークショップ形式で行うことが分かりやすいという提案もあったが、他にも実施件数を増やすために効果的と考えられる取組みなどがあるか。
川 端：約10年前、広島県で中小企業の展示会で、来場者に節水シャワーヘッドを無料で配布し、それと同時にうちエコ診断を受けてみませんか？という企画を実施した。当時は診断を受ける人はほとんどいなかった。しかし、現在は当時と比べて時代の変

化もあり、環境フェスタなどのイベントでうちエコ診断を実施すれば、配布物などではなくても興味を持って受けてみたい人が一定数いると思う。また、環境関係もしくは住宅の新築やリフォームイベントなどでうちエコ診断を実施すれば、多くの人が関心を持つのではないか。

- 3) スマートメータデータを活用した省エネコミュニケーションについて
講演後、下記の通り質疑応答を行った。

● 質疑応答

岡山ガス：現在、ガス業界でもスマートメーターの導入を検討している。ガス業界におけるスマートメーターの利点としては、検針作業が不要になることや、導管の圧力を測定することで健全性を確認できることが挙げられる。今日の講演を聞いて、省エネ診断にもスマートメーターのデータを活用できると感じ、非常に参考になった。現在は電気のスマートメーターを使用しているかと思うが、ガスのデータも組み合わせることで、家庭全体のエネルギー使用量をより正確に把握できると感じた。将来的には、ガスのデータを組み入れることも検討しているか？

八木田：現時点ではガスのデータを使用する予定はない。しかし、給湯に関しては電気の“使う時間”と“作る時間”が異なるため、電気のデータだけでは十分な情報が得られない。ガスのデータは、使用時間が毎時データで分かるため、非常に貴重なデータと考える。追い焚きができない、浴槽がタイルである、浴槽の状態が悪いために給湯温度が高くなるなどは、電気のデータだけでは分からない。一方、ガスのデータでは、なぜ特定の時間に使用量が増えるのかといった発見につながる可能性がある。また、ガスは一般的に給湯と厨房の使用データがまとめて表示されるため、毎時のデータが明確になることで、調理と給湯が明確に区別されると、非常に貴重なデータになると感じる。

岡山市：既存住宅の省エネ化が重要と考えているが、どのような方法で誰が働きかけると効果的なのか、アドバイスがあれば教えてください。

八木田：身近な知っている（信頼している）人からの働きかけが良い。実際の事例でも、家電屋さんや、高齢者の場合は介護関係の方からの提案も有効だと考える。そして自治体からの意見も聞き入れてくれるのではないかと思う。

岡山市：自治体としてはどのようにアプローチするのが効果的と考えますか。

八木田：先ほどの説明でも述べられたようなワークショップや、高齢者向けの見守りサービスなど、自治体が福利厚生の一環として提供するなどが挙げられる。特に、インターネットの利用が少ない場合は、実際に顔を合わせる事が重要と考える。また、何かのサービスとの組み合わせることも重要かもしれない。エネルギーに関して単独でアプローチするのは難しいように感じる。

金 光：やはり信頼できる人から情報を得ることが重要と感じる。例えば銀行などはどうか？

八木田：お金の面を考慮することも良いと思う。

- 4) 令和5年度省エネの進め方と省エネ診断事例について
講演後、下記の通り質疑応答を行った。

● 質疑応答

岡山ガス：省エネ最適化診断の現地診断では、数日間の計測データをもとに診断するのか、それとも1日で診断するのか。

児 玉：最適化診断は1日で診断する。

金 光：環境省のSHIFT事業では数日間の計測データに基づいて省エネ案を出すといったものもある。

5) 意見交換・質問

金光：(事前のアンケートより)省エネマインドを推進すると地域活性化部署などと意見が対立することがある。省エネの観点では、イベントを開催しない、休日にはレジャーに出かけないなど、エネルギーを消費する活動を控えることが望ましいということになる。このような状況で共存共栄できる方法はないか。

川端：日々の生活が楽しくないと意味がない。負担なく、いつの間にか省エネになっているような、無理のない省エネが理想。

八木田：CO2削減と環境負荷増加の傾向と拮抗するような事例もあると思うが、ウィン・ウィンな状態を探して、そこを積極的に進めることが重要と考える。

以上